

今回の内容を0ハシに捧ぐ。といった感じで始めました坂井先生コラム。皆様いかがお過ごしでしょうか？コミュニケーションとは発信する側そして受信する側が居て始めて成り立ちます。社会に出て初めに言われる事がそこですよね。「僕言いましたよ」とか「下に言っておきました」が重要なではなく「ちゃんと伝わったか」「相手は理解しているのか」が重要になります。もちろん、障がい児・者支援に置いてこれは重要な部分ですよね。「わかってるはず」や「返事をしたから大丈夫」はとっても危険です。 久田

第31回『わかるように伝えていきますか』

香川大学 坂井 聡

☆符号にすることと符号を解読すること

これは、コミュニケーションしている人が送り手にもなるし、受け手にもなるということを表しています。

メッセージの送り手としてのAさんは、伝えたい内容を言語的な符号（ここでは日本語）に変換して送ることになります。Aさんが言語的な符号に変換することができなければ、Bさんには何も伝わりません。言い換えるならば、符号にすることは、Aさんが伝えたい内容をメッセージとして作り出す行為ということになります。同時に受け手となったBさんは送られてきたメッセージを受け取り、そのメッセージを解読して意味を取り出さなくてはなりません。受け取るだけでなく、そこから意味を取り出さないといけなのです。符号を解読するということは、送られてきたメッセージを理解することなのです。

私たちは、送りたいメッセージを産出し、送られてきたメッセージを理解するという行為を絶え間なく行っているということになるのです。

1) 発達障がいのある子どもの場合は

発達障がいのある子どもにとって、符号にすることと符号を解読するという行為はコミュニケーションするうえにおいてとてもウエイトの高い問題です。なかでも、自閉症スペクトラムのある子どもの場合は、問題が大きくなることがあります。エコラリアをする自閉症スペクトラムのある子どもを例にして考えてみたいと思います。エコラリアとは、言われたことをその場ですぐに繰り返したり（即時性のエコラリア）、その状況で以前聞いたことのあることを言われた通り繰り返したり（遅延性のエコラリア）することです。オウム返しと言われることもあります。ことを話す自閉症スペクトラムのある子どもの少なくとも四分の三は、エコラリアを示すと考えられています。さて、自閉症スペクトラムのある太郎さんは、チョコレートが欲しくなると、お母さんに「太郎ちゃんチョコいる。はいどうぞ」と言います。母親が太郎ちゃんに大好きなチョコレートを与えるときに何度も繰り返して言っていたことを繰り返しているのです。遅延性のエコラリアと言われるものです。特定の状況とそのとき言われていた語句とを結びつけて学習していたということです。ことばの意味を理解しているのではなく、その状況で繰り返し言われていることを覚えていているということです。これは、メッセージを符号にするときの課題です。

また、ことばを聞いて理解することも困難な子どもたちもいます。小さいときに、お母さんが名前を呼んでも振り向かないので、聴力に関する病気があるのではないかと考える母親は多いと聞きます。その結果、耳が聞こえていないのではという主訴で、耳鼻咽喉科の受診を希望する親も少なくないのです。しかし、テレビのコマーシャルなどは言ったりするのです。これは、呼びかけられているということを理解できていないというように考えることができます。このようなことがあると、他人から呼ばれているのに無視をしているというように評価されてしまうこともあるでしょう。これは、符号として送られたメッセージを解読する際の課題です。同じような課題として、ことばを正確に解釈しすぎたり、字義どおりに解釈しすぎたりすることがあり、そのことによって悩む子どもも多くいます。誇張表現や比喩と同様に冗談も問題を引き起こすことがあるということなのです。そこに込められているメッセージを解読することができないのです。

話しことば以外の非言語的なコミュニケーション手段、たとえば身ぶりや表情などを理解し、それを適切に用いることが困難なこともあります。忙しそうにしている、それを理解することができず、話をやめることができなくなってしまうので、トラブルになることもあるのです。

『2) どう対応していけばよいのか』は次号に続きます・・・

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など